



## 函館市特別支援教育サポート委員会について

函館市特別支援教育サポート委員会は、平成18年度から、函館市で独自に設置している委員会です。学校（園）からの申し出に応じて、巡回相談を行い、校内委員会で、特別な教育的な支援が必要であると判断された幼児児童生徒への望ましい教育的対応について、専門的な意見の提示や助言を行うことを目的として設置されるものです。平成22年度はのべ約70回の巡回相談を実施しております。

サポート委員会は、特別支援学級や通級指導教室の担当教員、通常の学級の担当教員、特別支援学校の教員、心理学の専門家、福祉、保健、医療の専門家等で構成されます。巡回相談の状況に応じ、それぞれのケースについて、指導の形態や指導の方法などを全体会やグループで協議の場で話し合い、学校や園へのアドバイスを行っております。また、サポート委員が必要に応じて、保護者に対して、幼児児童生徒の特性や家庭で実行できるような配慮事項を具体的に伝えたりしています。

9月22日（木）には、今年度2回目の全体会を開催し、オブザーバーとして侑愛会理事長の大場公孝氏にお越しいただき、専門的な見知から、いくつかのケースについてアドバイスをいただきました。

各学校や園におきましては、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進いただいているところではありますが、サポート委員会の活用に関してお問い合わせがございましたら、教育指導課までご連絡ください。



第2回全体会の様子の様子

## 学校相互の連携や交流のために①

～幼稚園と小学校 「個と集団」・「環境構成と系統的な教科指導」～

☆新学習指導要領総則「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」において取り上げられている「校種間連携」。様々なハードルはありますが、まずはお互いを知ることから始めましょう。第1回の今回は「幼稚園⇄小学校」です。

以下の内容のような、相互の言い分にとどまっている状況はありませんか。

### 「幼稚園の教員が小学校に求めること」

#### ■個々の子どもを見るところから始めてほしいということ

「子ども一人ひとりが自分の世界をひろげようとする主体的な行為を援助する立場の幼稚園からみれば環境構成は子どもの現状の姿抜きには考えられない。遊び中心の生活を送っていた子どもが小学校入学と同時に時間割に沿った教育を受けることになる。また、自立心を育ててきたにもかかわらず、入学すると「何もできない1年生」として扱われがちである」

### 「小学校の教員が幼稚園に求めること」

#### ■集団行動の経験をもっと積ませてほしいということ

「個も大事だが、個と個をつなぎ、集団として活動する大切さを学ばせてほしい。意図的・計画的な学習を行う小学校からすれば必須。年長児の発達段階になればもっと集団活動を導入できるのではないか。「話を聞けるようにする」ことと合わせて、小学校への流れをつくってほしい。」

※実際に保育や授業を見てみると、わかり合えることがたくさんあります。お互いを参観し、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領生活科等を見比べてみると、いろいろと発見があります。まずは、以下のことに取り組みましょう。

○相互の保育や授業参観 ○幼児と児童の交流活動 ○合同の研修や会議の実施

（参考：神奈川県立総合教育センター 幼小・小中校種間連携指導事例集）